

国語 第2学年 いなばの 白うさぎ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。古くから伝わる話を聞き、人物の行動や出来事のおもしろさを味わう。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「いなばの 白うさぎ」 教材名 「いなばの 白うさぎ」

2 単元の目標

神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）
古くから伝わる話を聞き、人物の行動や出来事のおもしろさを味わう学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

〔思考・判断・表現〕①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①古くから伝わる話を聞き、人物の行動や出来事のおもしろさを味わう学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

古くから伝わる話を聞き、人物の行動や出来事のおもしろさを味わう。この教材では、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確かめる。想定する難しさは、話を聞かずに知っている別の版の出来事を混ぜる、よい子になる話としてまとめる。評価では、神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいるかを、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。読み聞かせを聞いて人物と出来事を確認する。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○読み聞かせを聞いて人物と出来事を確認する。面白いと感じた場面を選ぶ。行動を根拠に感想を伝え合う。違う感想もあると確かめる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例

でも生かせるかを試す。 評価：知①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「話を聞いて、どの出来事を友達にも伝えたいと思いましたか」

【めあて】古くから伝わる話を聞き、人物の行動や出来事のおもしろさを味わう。

予想される児童の反応：・同じようなことが繰り返されるところがおもしろい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「話を聞いて、どの出来事を友達にも伝えたいと思いましたか」

読み聞かせを聞いて人物と出来事を確認する。面白いと感じた場面を選ぶ。行動を根拠に感想を伝え合う。違う感想もあると確認する。

対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。

予想される児童の反応：・同じようなことが繰り返されるところがおもしろい。

・次にどうなるか予想しながら聞いた。

・友達と好きなのところが違った。

指導上の留意点：今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確認する。

想定する難しさ：話を聞かずに知っている別の版の出来事を混ぜる、よい子になる話としてまとめる。

評価では、神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいるかを、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文と活動中の発言・操作から確認する。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：知① 神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確認した言葉や表現を含めて話す。

人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。

予想される児童の反応：・友達と好きなのところが違った。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「話を聞いて、どの出来事を友達にも伝えたいと思いましたか」。中央は、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確認したことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

